

令和3年度 中央小学校・中央幼稚園 外部評価報告書

評価委員：鈴木一弥委員長、稲生憲一副委員長、鈴木英子委員、高安正美委員、片山英治委員、豊田一成委員 報告書作成者：鈴木一弥委員長

評価時期 令和4年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について

新型コロナウイルス感染症への対応で、学校公開の機会が減少し指導計画の変更があった中ではあるが、保護者の評価は「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が9割を超えていて目標はおおむね達成されているとの評価だった。教員の評価が保護者より低いのは、重点目標1に限らず教職員の自己評価に厳しい姿勢があるからだと考える。道徳教育に関する学校評価アンケートの保護者による評価が高い点は、コロナ禍における学校の取り組みが充実している証左となっている。今後も重点目標1の道徳教育への関心が高まっていくと考えられ、取組の継続と工夫が求められる。

重点目標2について

評価項目①の「どの子も分かる授業」、評価項目②の「基礎・基本の学力の定着」の両方において、肯定的な評価が90%以上であり、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応下での児童の学力に対する保護者の関心が高まる中、制約の中での学校の取組を評価している。各教科や学習活動の中で、一人1台を配布されたタブレット端末を活用した取り組みなどを、継続して充実させていってほしい。

重点目標3について

評価項目①の体育的活動の充実については、保護者も教員も肯定的な評価が高く、保護者の肯定的な評価は95%以上である。新型コロナウイルス感染症対応の下でも、全校一輪車活動などの体育的活動の成果が出ていることを認知されていると考える。評価項目②の新型コロナウイルス感染症に関する理解と感染防止に関する教育については、保護者・教員とも高く評価している。今後とも健康・安全な生活への取組の継続が求められる。

2 今後の改善に向けた意見

今年度も、感染症対応で実施が困難だったが、次年度は状況が整えば学校公開が実施されていくことを望む。今年度は感染症対応で実施が困難であったが、体力向上において一輪車活動やコーディネーショントレーニング以外の体育的活動にも取り組める時間を充実させていってほしい。道徳授業地区公開講座を公開できたのは、大変よかった。学校ホームページの活用などで、感染症対応下でも情報の公開はなされているので、継続していってほしい。

3 その他の意見

地域の中での交流が減っている今、道徳教育は学校だけでなく、保護者や子どもたちのまわりで生活する地域の人々にも関わりのある課題だ。地域・保護者ともに手を取り合って子供のことを考えるという視点を持ち続けてほしい。幼稚園の資料には幼稚園自己評価について幼稚園教諭の自由記述が添えられていて参考になった。アンケートの項目以外を選択する以外に、教職員について自由記述があってもよい。